

essais ころみ 2025年2月

2025年2月1日（土） 曇

早朝は陽もさいしていたが、雲がひろがってきた。夕方には雨が降るらしい。今日から2月、ここから時間のすぎるのがはやい。年度末、新年度を前に世の中もあわただしくなる。季節の変わり目でもあるから、体調に気をつけよう。

— どのようなPAか (3) —

『見える仕事の見えない働き』むすび

昨年10月下旬に思いたち、自分の仕事のベースを少し紐解いてみた。はっきり意識してではなかったけど、今年で事務所開設30周年になることもあってだとおもう。

読む、書く、算ずる、憶える、纏めるの5つの知の活動のうち、「まとめる」は事を俯瞰し、気づき、認識の定着あるいは刷新のプロセスでもある。『自業のすすめ』のときにそれ実感した。

今回はちょっとした「まとめ」なので、それほどでもない。でも大切なことを大切なこととして再認識したし、記録して残るのがいい。たぶん、後にこの意味を感じると思う。2020年に音声でまとめた自業のショートストーリーのように。

自分の歴史を大きく区切ると独立する前と後。独立志向なんてまったくなかったのだから、劇的变化といっている。でもその伏線はしっかり自分でつくっている。ふりかえるとそれがよくわかる。

それに「劇的变化」というのも、見た目の環境変化はそうだけ、内面に目をむける、根っこは変わっていない。否、それを変えなためにも、考え、動きを変えてきたのではないか。

LYK流「パーソナル・アシスタント」は、仕事のコンセプトというよりライフ上のテーマ、と思いいたって久しい。自分をとくまく世界のごく限られた人にはなるが、この道はずさず、進んでいくとしよう。

2025年2月3日（月）立春 曇

立春をむかえたが、今週はかなり寒くなる。その後はたぶん一気に春めいてくる。梅はそろそろ見頃か、人の少ないときに梅林でも散歩してみよう。

— 暦・こよみ —

二十四節気と旧暦の話をしたところ、「気持ちに余裕がでる感じですよ」と言った人がいる。一般のカレンダーだけしか気にしていないので、いつも時間に追われている感じがしていると自分をふりかえりながら。

気持ちに余裕、たしかにそれはある。時間を重層的とらえられるからかもしれない。二十四節気なら、季節の先どり感もいい。陽ざしがしっかり春めくのは春分の頃だけど、立春前後からもう微妙に変わり始めている。

季節の花々、草木も、見頃のずっと前から愉しむ気にもなる。梅の品種には「冬至」があって、大阪城公園の梅林へ年末には一度チェックしに出かける。昨年末は咲いていなかったけど、咲いている年もある。

夏の土曜の丑の日に鰻を食べる、のように暦には風習がついていることが多い。そのタイミングに誰かに手紙をだしたり、食事にさそったり、挨拶にいたりする。良い〈口実〉になる。

今年の立春は4年ぶりに3日になった。国立天文台の礫計算室は翌年の二十四節気を掲載してくれている。その先は「こひみのページ」を愛用させてもらっている。

二十四節気の中でも個人的に思い入れのあるのは、立春、清明、そして冬至。春がくる、春本番、そして1季節の終わり。終わりがくると、始まりがくるわけだから、新しい春の予感。やはり春が一番ということか。

2025年2月5日（水） 晴れ

朝の気温1°C、さすがに寒い。それでも大阪の寒さはしれている。ニュースによると、たった二日で2メートル雪が積もった地域がある。どんな生活になるのか、想像を絶する。

— 希望的観測 —

今朝のessaisで話した「希望的観測」のことは、先月26日に考えがうかんだ。すぐにメモしてあった。現実世界を俯瞰し、大局をとらえつつ、希望的観測をとる。そう心がけようと思った。

「自己成就の効果」とフランスの数学者はいい、「自己実現性予言」と著書に書いたのは中井久夫先生。前者はプラス面の意味合い、後者は、たとえば持病が悪化するかもしれないと人に言われると、実際そうなりやすいという。両方で自己暗示の功罪についていストゥ

根拠のない楽観主義に陥ってはだめだけど、、社会も個人も、悲観的になると、実際、そうなりやすい。だから楽観的になる方がよいと中井先生は書いていた。

まるっきり楽観になるというより、気持ちをそうもっていくよう努めるということだと思う。現実を現実として受けとめ、その上でどうココロとくらしをどう安定させるか考える。絶望に支配されては 老えが先へすすまない。

その上で希望的観測をする。何かの実現を願い、注意深く見て、変化や成り行きを予測する。そしてなんらかのアプローチをする。そうすれば、「自己成就の効果」が期待できる。というから、希望的観測を今年の〈スローガン〉にしようかと考えた年初。

2025年2月10日（月）

逆瀬川の宝壽院、友人の「日月ギャラリー」へ

leeslee.com/gallery20250201.pdf

昨年6月から季節ごとに二日間だけ開催する試み。散歩がてら、今回で二度目。「これはできるだけ、続けていこうと思って」とご本人。そう、自分を励ますためにも。



梅はまだ咲いていなかった。



2025年2月12日（水） 曇から雨

夜明け前、西の空にほぼ満月が輝いていた。小一時間ほどで雲にかくれた。今日は日中雨の予報。そういえが18日は「雨水」。

— 学びはうそをつかない (1) —

『他人にもっとも役に立つようにするためには、現在の自分にとってもっとも役に立つようなことをすればいい』（ヒュー・ブレイザー）にあたるかどうか、30周年節目のまとめをもう一つしておこう。

『勉強の期間、学びの実感』①

ちょうど10年前の2015年1月から2月初めにかけて、相楽で創業塾（全5回）の講師をつとめた。

事前の打ち合せで、テーマに応じて別の講師を頼むのも一考と勧めた。担当者は、静かに、かつ、きっぱりと、「いえ、おひとりで通してお願いします」。あとになってそのワケがわかったが、その姿が印象的だった。

受講者は30代から60代、男女ともに地域の人たちで、主催側の職員の人で個別に受講していた。大人な人たちばかりで、初日から和やかな感じで進んだ。課題にも一生懸命だった。

パワーポイントはつかわずボードに概念図や文言を書き、受講者とコミュニケーションをとりながら進めるスタイル、受講者の反応や表情をみながら話す。事前に話すことは決めてはいるけど、本番ではまた思考がめぐり、話がどんどん展開する。

“言ってることが変わっているなあ…”。話しながら、別の自分が自分をみて、そう思った。これか…という感じであった。

仕事の次元をあげるために必要な何か、それに出会ったのは2003年だった。でも勉強に本腰をいれたのは2010年春になった。

まる2年半独学で時間を費やし、仕事への生かし方を組み立てるのにさらに1年半を費やした。それでも未熟を感じるばかりで、いったん、そこから脱した、距離をおいた。

しかし、たしかに何かは身につけていた。学びとっていた。話しながらそう気づくというのは、あるものでもない、たぶん。よく勉強する人はすでによくわかっていることだろうけど、初めてだった。

この時点では、学びはうそをつかない、という発想まではいかなかったが、そう言えるようになった。

2025年2月14日（金） 晴れ

今日は一日晴れの予報。気温も11°Cまであがり、明日は13°C、陽ざしは春めいてきたから、風さえなければ、ポカっとしそう。今日はバレンタイン、そこかしこで、ポカっとしそう？

— 学びはうそをつかない (1) —

『勉強の期間、学びの実感』②

ところで、主体的にのぞんだ勉強には注目する点がある。勉強の仕方にその人の〈学習のための学習能力〉の特性が反映されると推察している。個人的な経験と、他者から直接聞いた話から、そうみた。

自分から進んで勉強している場合、何とか早く理解したいという気持ちになる。勉強方法を工夫したくなる。自然にそうなる。そして自分に合うやり方に辿りつく。

例えば個人的には、診断士の勉強の時にとった方法は図示・体系化。最初にしたのは、文具店で建築や情報系のテンプレート定規を買い、手書き。PCが一般家庭にも普及してからは、図形ソフトを使って。

逆に、テキストの図や写真をすべて文字化するという人もいる。図や絵では頭に入らないのだそう。「図でわかりやすく」という言い回しは定番だが、それがダメというのには、本当にびっくりし、認識を新たにしました。

びっくりといえば、診断士の二次試験の中小企業施策の対策にも個人差をみた。受験校の模範解答をそのまま暗記しようとする。800字の解答紙面の行頭文字をまず憶え、その連想で全体を憶えるという方法。到底自分には真似はできない。

そもそも丸暗記だなんて、採点する専門家には丸わかりだろうに。あまり得策とは思えない。当方は、各施策の基本事項だけをおさえ、自分で文章全体をまとめていった。それを自分の模範解答にした。

診断士のあの時の勉強の仕方に、のちの仕事のスタイルの芽があったと気づいたのは、独立して10年ほど過ぎた頃だった。以来、相談の場面で、「その資格の勉強した時の仕方はどうでした？」と尋ねることがある。そこにあなたの独自の仕事スタイルの原型があるかもしれませんよ、と。

2025年2月17日（月） 晴れ

昨夕からよく晴れて、今日も続きそう。気温は昨日ほどは上がらない。明日から明後日にかけてはまあ寒波がやってくるらしい。体調をくずさないようにしなければ。

— 学びはうそをつかない (1) —

『勉強の期間、学びの実感』③

30年ほど前に知人から勧められ読んだ、『〈わかる〉ということの意味』（佐伯胖）の著者が2013年に東大で講演した概要を見つけた。その中に勉強と学びの違いが書いてある。

「私が考える勉強と学びの定義とは『勉強』＝教えに従って『身につけるべきこと』を身につけること。『学び』＝自分から『こうありたい』自分になること。自分で本当だと思うことを自分で楽しみながら探求していく、それが学び」（佐伯胖）

勉強から学びへつながる過程、これが重要。「博士ちゃん」たちのように子どものうちに自分の好きなものに出会い、それを探求できる環境なら学びは深まる。親の役割も大事になってくるが、「子どもの天才ぶりを台無しにするのは大半が親」（マーヴィン・ミンナー）といふ

それでも子どもの頃に勉強の習慣がある程度あった人は、大人になって何かに目覚め勉強の必要性に迫られれば、学びへの道はつく。勉強を進めるうちに、関連分野の知識にも手がいき、知ることがたのしくなる。そうなるともう学びの世界。

同質なところから創造性は生まれにく。『創造性を拓く』（早川書房1991年）に登場する〈創造的な人たちも、「わずかな知識はないよりでしたが、豊富な知識が何にもまして大切だ」と強調する。

仕事で、何らかの専門性をもって世に出ようとする人、すでに出て飛躍をめざす人に、助言することが多い。どちらにも自身の専門以外の多様な知識や技能にふれる大事さを話し、同専門他者とは異なる魅力をそなえるようにしましょうと励ます。実際に努力する人も多い。

その努力の結果は後にみえる。勉強している間は、時に徒労感を味わうこともある。でも、学びは、けっして、うそをつかない。「『こうありたい』自分になること」に近づいている。

2025年2月19日（水） 晴から曇へ

早朝はキリッとよく晴れた。ただし予報では夜にかけて曇のマーク。またまた冷え込んでいて、東の日本海側は大雪。大阪市内は今のところ風もよわく、しのげる寒さ。

— 学びはうそをつかない (2) —

『先天と後天、学びのパノラマ』①

いま音声で再読している『数学する人生』に、人は生後32ヶ月で、「その人が一生使うほどの情緒的なたくわえを用意する」と「岡潔」は書いている。

2008年6月21日日経コラム『交遊鈔』に著名なフランス文学者の〈ひそひそ話〉が紹介されている。「あの人はできがいい」という場合の「でき」とは何か、それは「生まれつきや」と呟いたらしい。

『心理学大図鑑』（NEWTONプレス）に「パーソナリティーは遺伝と環境の相互作用と考えられている。最近の研究では、50%・50%」とある。運命は先天と後天の半々に因ると東洋哲理にある。

いつか恩師宅を友人二人と訪ねた帰り道、恩師の話の何に注目したか、それがバラバラだったのが、印象にのこった。専門学校で高校卒業したての学生たちに話しながら、反応の違いにこの差はどこにあるのだろうと頭の隅でおもった。

6人きょうだいの一番目、きょうだい皆それ相当の年齢になり、今となっては、きょうだいでもこれほど違うというほどライフスタイルは違う。一番目から6番目にかけて、生活環境が変わっていくから、当然といえど当然。

ただ、何かしら共通するものはある。それを言語化するのはむずかしい…、さて、どういう言葉がしっくりくるか…、こうして書きながらふと、あっ、「情緒」か、と閃いた。「岡潔」のいう、「情緒」。

2025年2月21日（金） 晴から曇へ

日の出が目に見えて早くなった。1月中旬には反転していたが、気づくようになるには、ひと月ほどかかる。今日もまだ寒いですが、来週は春めくよう。

— 学びはうそをつかない (2) —

『先天と後天、学びのパノラマ』②

仕事でたくさんの方の〈個人的な話〉をたくさん聴いてきた。なぜその仕事なのか、業なのかを尋ねることになるから、自然にそうなる。人によっては、大変な逆境を生きてきた人もいます。そういう人が決して少なくない。そういうこともわかった。

だから想像する、こうして自分の未来を変えようと外の世界へ出ていない人も少なくない、と。否、その方が多いのではないかと。安心・安価で起業・経営の支援をうけられる公的機関へなんとか足をむけることができれば、現況から脱皮する扉は開くはずだけど…

外の世界へ出る人、出られない人。その差はどこにあるのか。ひょっとすると、自分のことを人に〈話せる〉かどうかではないか。別な言い方をすれば、人を信頼できるかどうか、その前提に、信頼できる人かどうかを見分けられるか、ということかもしれない、

信頼できそうだと感じたなら、少しは自分を開示するもの。話しても大丈夫を見込んでもらったほどの相手なら、本人のプラスになるような話を必ず返すはず。どこどこに相談できるところがあるから 一度行ってみれば？という風に。

突破口は意外に些細なこと、些細なことのようで、かなり鍵になること。それらと本人の持って生まれたもの、そのあとの環境。まわりにどのような人間がいたか、どう関わったか…。考えるとあまりに壮大 自身を物語るしかないか。

2025年2月25日（火） 晴

3連休は寒かった。昨日は大阪市内でも雪がちらついた。今日は日中10°Cまで上がる予報。週末には18°Cとは、これはカラダに堪えそう。疲れを感じたら、小休止を。

— 学びはうそをつかない (2) —

『先天と後天、学びのパノラマ』③

先天は宝石の原石、後天はその砥石と研ぐ人、ということになるか。研ぐのは自分でもあり、他者でもあり。子どもの頃は他者、その第一番は親または一番身近な大人。

祖父母と同居していたという人は、親よりも祖父または祖母の影響が大きいよう。知人に何人かそういう人がいるし、本を読むと、「中井久夫」も「岡潔」もそのよう。

高校の古文の先生は狂言のお家の人だった。いつか授業の中で狂言の修業の話をしてくれた。よちよち歩きの段階から修業は始まるらしいが、3歳までは動物のように仕込むという。今もなぜかそれだけ記憶している。

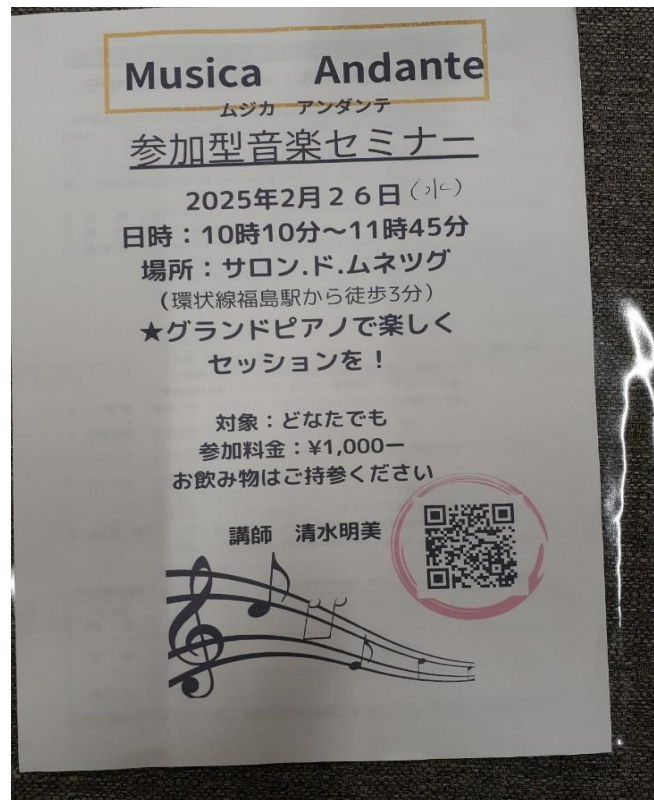
『三つ子の魂百まで』の三つ子は、満2歳をさすとも、あるいは年齢ではなく幼少期をさすともいう。「岡潔」は、人間は生後32ヶ月で一生分の情緒的たくわえをするという。

なぜわたしは空をみるのか。なぜ高層ビル建設現場のクレーン操作を飽きずに見ることができるのか、友人たちに付き合い仕方なく観たイルカショーになぜ一番喜んだのか、自分でもワケはわからない。

自分でもワケのわからない何か、それを魂とも、情緒ともよんでいいのだろうと思う。ここでは後者をつかうとして、その人の情緒と身体（能力）が後天的なものとからまり、その人の世界がつくられる。

個々人のその世界が日常に縦横無尽にかさなり広がっているのだから、そう考えると、この世は豊か。

2025年2月26日（水）午前10時すぎ 自業の道を進む方のセミナーへ参加



JR環状線福島駅から歩いて5分ほどにあるレンタルスペース。外観も、屋内もなかなか素敵な場所でした。サロンコンサート、朗読劇や一人演劇、飲食の持ち込みもOK、大きな冷蔵庫も完備していました。サロン、パーティも十分できそうです。



日に日に気温があがり、今日は13°Cの予報。朝もさほど寒くないのでパッと起きられる。季節のいいうちに時間をうまく使おう。

ー 学びはうそをつかない (2) ー

『先天と後天、学びのパノラマ』④

「活字が好き」というのは「読書が好き」とずっと解釈していた。活字そのものが好き、とは知らなかった、ほんの数年前まで。そういう人に出会ったので、どんな感じなのか尋ねてみた。

文字の姿というか、成り立ちに関心が向くのだそう。だからか、子どもの頃の習い事は英語をしたかったそう、親に反対されたらしいけど。電車に乗る時など、本を家にわすれたなら、駅で広報紙などを片っ端からとり、車内でずっと誦むらしい、というか、みる？

活字に目がいく才覚はないが、人を視るのはできるのかもしれない。ずいぶん前に大学教授の知人から少し感心されたことがある。一緒に京都を散歩していたとき、前からくる年配の男性にもった印象が同じだったことに、「そうか、みられるんですね」と。

そうだとすると、なぜそうできるか。案外、「なぜか空をみる」と通じているのではないか。空をみる、自然をみる、ありのままをみる、自分も他者の天性・本姓をみようとする。

社会生活の中でたくさんの人をみて、接して、さまざまなケースを自分のデータベースにして、しだいに人を視ることができるようになる。先天から後天へのバトン。

でもそこにけっこうカギになっているのが、外国人として生まれたということ。自分の精神を守るためにも、人を視る、世の名を視る力が必要。意識せずとも、成長過程で、かなり養われていったのではないか。

「後天」の要素が特殊になるが、自分自身にとっては、さいわいしたと考えている。